

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄復帰式典（式次第、含叙勲）(5)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43585

ラジオトト高年弁護官叙勲

	<p style="text-align: right;">266</p> <p style="text-align: right;">昭和45年8月26日</p> <p style="text-align: center;">沖縄復帰準備委員会 日本国政府代表 顧問</p> <p style="text-align: center;">外務大臣</p> <p>(件名) 米、琉球諸島民政府職員の叙勲について</p> <p>引用公・電信 日付・番号 7月29日付貴信第441号</p> <p>1. 沖縄高等弁務官以下米、民政府職員は日本政府の行政権を代行するものでないので、その在任中、單に施政上に成績を挙げたことのみでは叙勲の対象にならないとの方針の下に、かつて、同民政府勤務 Brig. Gen. John G. Ondrich (1959.7.1 - 1962年5月まで在任2年11ヶ月)</p> <p style="text-align: right;">(※印は文書記入)</p> <p style="text-align: center;">GA-2-1 外務省</p>
2	<p>が離任するにあたり、総理府特連局から叙勲方協議越したが、叙勲しなかった。</p> <p>(従来、高等弁務官以外の米、民政府職員には全然叙勲していない)</p> <p>したがって、今回、申請があった宮古群島民政官府長 Lt. Col. Juji J. Hada および八重山群島民政官府長 Lt. Col. Harry K. Fukuhara に対しても叙勲しないこととするから了承ありたい。</p> <p>2. 沖縄米民政府の最高責任者である高等弁務官に対する在任中、沖縄住民の福祉向上から見て日米協力上特に顕著な功績があつたものと認められる場合には、在日米軍幹部叙勲との均衡上、2年以上の在任者に限り下記のとおり離任に際し叙勲した。</p> <p>叙勲例:</p> <p style="text-align: right;">GA-4 外務省</p>

<p style="text-align: center;">3</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2">(1) 旭日二等、昭和35.12.23付叙勲 (在任2年8ヶ月)</td></tr> <tr><td colspan="2">陸軍中將 ドナルド・アレンティス、フース (2代目)</td></tr> <tr><td colspan="2">(2) 瑞宝一等、昭和41.9.30付叙勲 (在任2年2ヶ月)</td></tr> <tr><td colspan="2">陸軍中將 アルバート・ワトソンニ世 (4代目)</td></tr> <tr><td colspan="2">(3) 瑞宝一等、昭和44.1.17付叙勲 (在任2年)</td></tr> <tr><td colspan="2">陸軍中將 フェルディナンド・トマス・アンガー (5代目)</td></tr> <tr><td colspan="2"> 参考</td></tr> <tr><td colspan="2">叙勲しなかった例</td></tr> <tr><td colspan="2">(1) モーア 陸軍中將 (在任10ヶ月) (初代)</td></tr> <tr><td colspan="2">(2) キャラウェー 陸軍中將 (在任3年7ヶ月) (3代目)</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">GA-4</p>	(1) 旭日二等、昭和35.12.23付叙勲 (在任2年8ヶ月)		陸軍中將 ドナルド・アレンティス、フース (2代目)		(2) 瑞宝一等、昭和41.9.30付叙勲 (在任2年2ヶ月)		陸軍中將 アルバート・ワトソンニ世 (4代目)		(3) 瑞宝一等、昭和44.1.17付叙勲 (在任2年)		陸軍中將 フェルディナンド・トマス・アンガー (5代目)		 参考		叙勲しなかった例		(1) モーア 陸軍中將 (在任10ヶ月) (初代)		(2) キャラウェー 陸軍中將 (在任3年7ヶ月) (3代目)		<p style="text-align: right;">儀典長(△) 儀典官(○) 儀典官(△) 参事官(△) 北米オーラー課長(△) 支務官(△) 車務官(△)</p> <p style="text-align: center;">アメリカ局長(△) 北米オーラー課長(△)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td colspan="2">ランパート米国琉球諸島高等弁務官 の叙勲について</td></tr> <tr><td colspan="2">47.1.28 北米オーラー課長(△)</td></tr> <tr><td colspan="2">米国琉球諸島高等弁務官 ジェームス・ベンジャミン ランパート中将 (Lt. General James Benjamin</td></tr> <tr><td colspan="2">Lampert) は、5月15日沖縄の本土復帰の日には その任務を終え米本国へ帰国するところ、同中将</td></tr> <tr><td colspan="2">が高等弁務官として在職中、沖縄住民と米軍、以 ては日米関係の増進並びに沖縄の経済、社</td></tr> <tr><td colspan="2">会的農業をもたらし、沖縄返還をめぐる日米協 力関係の維持増進につくした功績における</td></tr> <tr><td colspan="2">ため、叙勲方内々検討のところ、同中将に対しては勳一等旭日章の叙勲方然るべく存ぜられる。</td></tr> <tr><td colspan="2">ついで同中将に関する功績説明を別</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">GA-6</p> <p style="text-align: right;">外務省 3/22 原文 儀典長(△) 北米オーラー課長(△)</p>	ランパート米国琉球諸島高等弁務官 の叙勲について		47.1.28 北米オーラー課長(△)		米国琉球諸島高等弁務官 ジェームス・ベンジャミン ランパート中将 (Lt. General James Benjamin		Lampert) は、5月15日沖縄の本土復帰の日には その任務を終え米本国へ帰国するところ、同中将		が高等弁務官として在職中、沖縄住民と米軍、以 ては日米関係の増進並びに沖縄の経済、社		会的農業をもたらし、沖縄返還をめぐる日米協 力関係の維持増進につくした功績における		ため、叙勲方内々検討のところ、同中将に対しては勳一等旭日章の叙勲方然るべく存ぜられる。		ついで同中将に関する功績説明を別	
(1) 旭日二等、昭和35.12.23付叙勲 (在任2年8ヶ月)																																					
陸軍中將 ドナルド・アレンティス、フース (2代目)																																					
(2) 瑞宝一等、昭和41.9.30付叙勲 (在任2年2ヶ月)																																					
陸軍中將 アルバート・ワトソンニ世 (4代目)																																					
(3) 瑞宝一等、昭和44.1.17付叙勲 (在任2年)																																					
陸軍中將 フェルディナンド・トマス・アンガー (5代目)																																					
 参考																																					
叙勲しなかった例																																					
(1) モーア 陸軍中將 (在任10ヶ月) (初代)																																					
(2) キャラウェー 陸軍中將 (在任3年7ヶ月) (3代目)																																					
ランパート米国琉球諸島高等弁務官 の叙勲について																																					
47.1.28 北米オーラー課長(△)																																					
米国琉球諸島高等弁務官 ジェームス・ベンジャミン ランパート中将 (Lt. General James Benjamin																																					
Lampert) は、5月15日沖縄の本土復帰の日には その任務を終え米本国へ帰国するところ、同中将																																					
が高等弁務官として在職中、沖縄住民と米軍、以 ては日米関係の増進並びに沖縄の経済、社																																					
会的農業をもたらし、沖縄返還をめぐる日米協 力関係の維持増進につくした功績における																																					
ため、叙勲方内々検討のところ、同中将に対しては勳一等旭日章の叙勲方然るべく存ぜられる。																																					
ついで同中将に関する功績説明を別																																					

添の如くとりまとめたので、右にて詳細御検
討願いたい。

(前項)

功績調書(案)

(熱一等旭日章) 陸軍中將 ジエラード・ベンジャミン・ランパート

右は一九六九年七月二十日、アメリカ合衆国琉球諸島高等弁務官に就任以来、今般沖縄の本

任命され、一九六九年一月三十日着。

土復帰によりその任務を全うし離任するに至るま

で在任三年

○

月、二の間沖縄住民の願望を十

分理解し、沖縄の本土復帰をめぐる日本協力団
得の増進及び沖縄住民の福祉の向上に尽した

外務省

功績は誠に顯著である。その主な業績を
あげれば次のとおりである。

一、沖縄復帰準備委員会の積極的な活用等
を通じ日本政府及び琉球政府との協力を密
にし、沖縄の社会的、文化的、経済的発展に尽す
とともに、常に沖縄住民の願望を窺いつつ、卒
直に米本国政府及び議會閣僚等と親しき、それ
らの沖縄に対する理解を深めしめ、沖縄の本土
復帰を促進する上に多大の貢献した。

△昨年十一月米国上院
の沖縄返還決定審議
に出席
同席者へ沖縄の
早期返還の必要性
を強調した証言を行なった三回の記憶

に新しくある。

外

二、長年にわたる沖縄百萬県民の念願であつ
た國政参加を実現するためあらゆる努力を
払い、また、半國の民政諸权限の日本國へ移
行を因渭ならしめる所、沖縄の本土復帰前
に半國民政機能の一定のものを琉球政府に委
任する道を拓いた。

三、沖縄はもとより、日本本土においても重大な關
心事である在沖縄毒ガス兵器については、沖

縄住民の感情を十分考慮し、あらゆる弊害を

外務省

を提方撤去の方針を半國政府に訴
えその実現に導くとともに、その撤去に際し
ては自から數度にわたり撤去作業にも立会い、
移送の際の安全対策に万全を期した。

四、在沖縄米軍基地をめぐり、米軍関係者及
び沖縄住民との間に派生する諸問題につけては、
常に沖縄住民の要望等を十分尊重し誠心
誠意その解決につとめ、また、米軍基地に仰ぐ
沖縄労務者の削減に対するは、努めて配置転

換を図り削減を最小限度にあたふるとともに、離職者対策に最善をつくす等沖縄の民生安定に努力した。

五、沖縄に度々襲来する台風の被害に対するは、

罹災地区住民に直ちに建築資材、医療品等の救援品を送り被災者に努力めんとし、既に応じて自ら現地に赴き直接被災作業の指揮に沖縄の岸にあける漁船の遭難及び離島における急患の救護等に對しては急擧災害ヘリコプター

を派遣する等積極的に対処する措置を講じた。

ジエームス・ベンジミン・ランパート (Lt. General James Benjamin Lampert)	
高等弁務官略歴	
1914年4月16日	ワシントンD.C.で出生
1936年	米陸軍士官学校卒業
1939年	陸軍少尉任官 マサチューセッツ工科大学卒業
1940年	陸軍中尉 工兵学校正規の課程を終了
1942年	陸軍少佐
1943年	陸軍中佐
1945年1~8月	フィリピン群島ルソン島駐留 第14軍團工兵隊長代理及び 同隊後室勤務

GA-6

外務省

1945年7~12月	在日オ14軍團工兵隊長室勤務
1945年12月~	陸軍大佐
1945年12月~1946年3月	在日オ9軍團工兵隊長
1946年3月~1947年2月	ワシントンD.C.マンハッタン計画
1947年2月~1948年7月	行政担当将校 ワシントンD.C.米軍特殊兵器計画
1947年	局人事行政部長 工兵学校上級課程、參謀統
1948年7月~1949年6月	帥大學、參謀大學卒業 ワシントンD.C.米軍特殊兵器計画
1949年6月~7月	局特殊計画部長 サウスカロライナ州ヤルストン
1950年7月~1952年9月	在米陸軍地区工兵隊長 オクラホマ州ブルサ在工兵团

GA-6

外務省

3

アーカンサス ホワイト レッド リバー
流域計画主任

1952年9月～1957年7月 ワシントンD.C. 陸軍原子力委員会
共同原子力発電計画主任

1957年8月～1958年7月 國防大学
1958年7月～10月 サイゴン 米軍救援顧問團技術

事内官

1958年10月 陸軍准將

1958年10月～1960年12月 サイゴン 米軍救援顧問團兵
站部次長

1961年1月～1963年6月 米陸軍工兵監察軍事施設部長
1961年9月 陸軍少將

1963年6月～1966年1月 二二一師團 ウエスト ポイント
米陸軍士官學校長

GA-6

外務省

3

4

1966年1月 陸軍中將

1966年1月～1969年1月 ワシントン D.C. 菲國防次官補代理

(兵員管理担当)

1969年1月 在琉球諸島米軍司令官 兼高級

弁務官 (在琉球陸軍及び沖縄
軍團司令官、米太平洋方面統合

軍統司令部琉球代表兼務)

GA-6

外務省

4

ランパート高等弁務官の経歴

昭和43.1.29
アメリカ局北米課

1. 路歴

- (1) 氏名 James Benjamin Lampert
(2) 生年月日 1914年4月16日
(3) 出生地 コロンビア特別区ワシントン市
(4) 学歴
1936年 米国陸軍士官学校卒業
1939年 マサチューセッツ工科大学卒業
(土木工学修士課程)
1940年 ヴァージニア州フォート・ベルボア米陸軍技術学校普通科修了
1947年 同上学校高等科修了
1947年 カンザス州フォート・レバーシアス指揮幕僚大学及びヴァージニア州ノーフォーク統合幕僚大学修了
1958年 米国国防大学修了
(5) 経歴
1936年 陸軍少尉(砲兵)任官、同年中に工兵に転科
1942年6月 フィジー、ブーゲンビル、ルソン等太平洋地域艦載

1945年7月 フィリピン及び日本勤務
~46年3月

1946年3月 マンハッタン計画(米軍原子爆弾開発委
造計画)専任将校

1947年2月 ~48年7月
米軍特別兵器計画人事・管理部部長

1948年7月 ~49年6月
米軍特別兵器計画特別計画部部長

1949年6月 ~50年7月
サウス・カロライナ州チャールストン米
陸軍工兵地区指揮官

1950年7月 ~52年9月
オクラホマ州ツルサ米陸軍工兵アーカン
ソー・ホワイト・レッド河流域研究開発
計画担当指揮官

1952年9月 ~57年7月
米陸軍・原子力委員会合同核開発計画(軍事利用のための原子力発電所の研究開発計画)担当将校

国防大学在学

1957年8月 ~58年6月
ベトナム米軍事援助顧問团兵站担当部長

1958年7月 ~60年12月
1961年1月 ~63年6月
米陸軍省工兵局軍事建設部長

1963年6月 ~66年1月
米国陸軍士官学校校長(在職中の業績としては、カリキュラムの改善、毎学生数定員の2500名から4400名への

増加、及びそれに伴う施設、設備の拡充、整備等が挙げられる。)

1966年1月～ 兵員担当国防次官補代理

1958年 琉球諸島米軍高等弁務官に指名
11月20日

(6) 異進

1958年10月8日 准将(仮任命)
1963年2月1日 准将(本任命)
1961年9月1日 少将(仮任命)
1965年7月26日 少将(本任命)
1966年1月7日 中将(仮任命)

2. 家族及び趣味

- (1) 1937年6月26日結婚
(2) 家族は妻(Margery M. Lampert)のほか2男
1女(James B. Lampert, Richard B. Lampert,
Hester A. Lampert)

(3) 趣味はゴルフ及び水泳。

3. 人物評

- (1) ランパート中将は、立派な、かつ、知性にとむ人物である。同中将は経験の示すとおり技術畠の出身であり、そのため核開発計画に参加した

こともあるが、陸軍士官学校を3年あまりつとめたことは人望があつく、行政能力を十分に備えており、また人の意見によく耳をかたむけることを物語つている(陸軍省情報部談)。

(2) 陸軍士官学校同期には、ウェストモーランド陸軍参謀総長、エイブラムス在ヴィエトナム米軍司令官等があり、卒業時の成績序列は3・5番。

外政事外儀官 務務 次次 臣官官審審長長 儀總人電厚計 書文會當給		注意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。					
電信写							
		主 管 米 国 発 着 米北1 72年4月3日20時57分 72年4月4日10時55分					
外務大臣 殿 牛場(大使) 臨時代理大使 総領事 代理							
ランパートリュウキユウ高等弁務官の退役							
第1327号 平							
3日国防省は米陸軍リュウキユウ列島総司令官兼リュウキユウ高務弁務官ランパート中将が本年7月1日に退役する旨発表した。 (了)							
<table border="1"> <tr><td>ア</td><td>参地中東 景 米長 中 南 密 欧 長</td><td>二 東西 北保 一二 参西東洋 西東 三</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>近 ア 長 經 長 經 協 條 長 國 長 情 長 文 長</td><td>参書近ア 次總經國資 參貿統三 參政技一理 国企二 參條協規 參政經科 軍社專 參道内外 参一二</td></tr> </table>			ア	参地中東 景 米長 中 南 密 欧 長	二 東西 北保 一二 参西東洋 西東 三	近 ア 長 經 長 經 協 條 長 國 長 情 長 文 長	参書近ア 次總經國資 參貿統三 參政技一理 国企二 參條協規 參政經科 軍社專 參道内外 参一二
ア	参地中東 景 米長 中 南 密 欧 長	二 東西 北保 一二 参西東洋 西東 三					
近 ア 長 經 長 經 協 條 長 國 長 情 長 文 長	参書近ア 次總經國資 參貿統三 參政技一理 国企二 參條協規 參政經科 軍社專 參道内外 参一二						
外務省							

秘 無期限	アメリカ局長 参事官 北米オーラム
31 米國琉球諸島高等弁務官ランパート中将の歯熱の件 47.4.5 北北1	
本日前、本件に関する別添議事録を作成ペ ペー ^ル を追水総領事官に手交したところ、午後 同政書官より本件につき院内の山中総務長官に 説明すると共に、別添赤紙の部分のみを総務長官に (賞勵可及び内閣側との協調等) 渡しておいた旨連絡があつた。	
GA-6 外務省 4090	

47.3.15 国交省

儀典長

アメリカ局長

参事官

北米一課長

専務官

儀典官

儀典官

儀典官

専務官

(1972.3.8)

儀典官室

河崎、2088

米国琉球諸島高等弁務官ランパート中將の叙勲について

アメリカ合衆国琉球諸島高等弁務官、陸軍中將ジェームス・ベン
ジャミン・ランパート(58才)は、1969年1月28日着任以来、本年
5月15日沖縄の本土復帰に伴い離任するに至るまで在任3年
4ヶ月、この間、沖縄の本土復帰をめぐる日米協力関係の
増進、沖縄住民の福祉向上および沖縄の経済的、社会的、
文化的発展に寄与した功績が顕著であるので離任を
機会に叙勲選考方、賞勲局および内閣側と協議する
(通常瑞宝一等)
とする。

なお、同中將に叙勲すべき勲章につき、本件発議のアメリ
カ局北米一課では、中將に対する叙勲基準による旭日二等
または瑞宝一等ではなく、例外的に旭日一等(大將に叙勲
するもの)を叙勲したいとの意向であるが、このためにはランパ
ート中將には旭日一等でなければ適当でないとする論據を
示す方が限り、賞勲局および内閣側を説得することは困難
である。

GA-5

外務省

備考

1. 正代の琉球列島高等弁務官叙勲例。

2. 二年以上在任して離任する在日米軍司令官、中將には一律に瑞宝一等を叙勲している。

GA-6

外務省

1 3/14、佛學長官(下田承信)
リモモロム(内閣)
協議のため25日帰國
が4の由(4/4)當

アメリカ合衆国琉球諸島高等弁務官
陸軍中將 ジェームス・ベンジャミン・ランパート
James Benjamin Lampert
1914.4.16生 (58才)

略歴

1936年 陸軍士官学校卒業
陸軍少尉に仕官。
以来累進して
1961年9月 陸軍少將
1966年1月 陸軍中將

在日米軍関係職歴

1945年7月-12月 (在任6ヶ月)
在日第14軍團工兵隊長室勤務 (中佐)
1945年12月-1946年3月 (在任3ヶ月)
在日第9軍團工兵隊長 (大佐)
1969年1月22日-1972年5月15日 (在任3年4ヶ月)
琉球諸島高等弁務官

功績

1. 沖縄の本土復帰促進

沖縄復帰準備委員会の積極的な活動等を通じ、日本政府とより琉球政府との協力を密にし、沖縄の社会的、文化的、経済的発展に尽すとともに、常に沖縄住民の願望を適切かつ平直に米本国政府および議会関係等に説いて沖縄に対する理解を深からしめ、沖縄の本土復帰を促進する上に多くの貢献をした。
昭和46年11月、米国上院の沖縄返還協定審議において沖縄の早期返還の必要性を強調した証言を行なった。

2. 沖縄県民の国政参加に努力

沖縄県民百万人の念願であった国政参加を実現するため努力を払ひ、また、米国の民政権限の日本圏への移行を円滑に進めるため沖縄の本土復帰前に米国民政権底下一定の地位を逐次琉球政府に委任する道を拓いた。

GA-6

外務省

3. 毒ガス兵器の撤去

在沖縄毒ガス兵器については、沖縄住民の感情を十分考慮し、あらゆる機会ととらえ撤去の必要性を米本国政府に訴えその実現に草くとともに、その撤去の際は自ら駆け回りわたり作業に立会い、かつ、移送の際の安全対策に万全を期した。

4. 米軍関係者と沖縄住民間の諸問題の解決

在沖縄米軍基地をめぐり米軍関係者および沖縄住民との間に生ずる諸問題については、常に住民の要求等を十分尊重しその解決につとめ、また、米軍基地に就労の沖縄労務者削減と最小限におさえるとともに離職者対策是最善を尽す。

5. 台風被害者等の救援、難漁船の救助

沖縄に度々襲来する台風の被害に対する罹災地区住民へ直ちに建築資材、医薬品等の救援品を送り、時には自ら現地に赴き直接救援作業の指揮にあたる。
また、沖縄の沿岸における漁船の遭難および離島にむかう患者の救出等に対しては急遽米軍ヘリコプターを用意する等積極的に措置を講じた。

以上、ランパート中将が琉球諸島高等弁務官に在任3年4ヶ月。

この間、沖縄の本土復帰をめぐる日米協力関係の増進および沖縄住民の福祉向上ならびに沖縄の經濟的、社会的、文化的発展に尽した功績が顕著であるので、5月15日沖縄の本土復帰に伴い離任するとの機会に叙勲する。

GA-6

外務省

琉球諸島高等弁務官離任の際の功績による叙勳標準

1. 在任2年以上
2. 本諸島住民の福祉向上と日本協力上に顕著な功績があること。

備考
資料
(1)

米、琉球諸島高等弁務官 叙勳例

（琉球諸島）

昭和35. 12. 23付叙勳（離任・除）（在任2年8ヶ月）

旭二 陸軍中將 ドナルド・フレンティス・ブース
2代目

昭和41. 9. 30付叙勳（離任・除）（在任3年2ヶ月）

瑞一 陸軍中將 アルバート・ワトソン二世
4代目

昭和44. 1. 17付叙勳（離任・除）（在任2年）

瑞一 陸軍中將 フェルディナンド・トマス・マンガー
5代目

GA-6

外務省

米、琉球諸島高等弁務官離任の際叙勳しなかつたもの

木村代
モーア 陸軍中將

在任：自昭和32. 7. 至。33. 4. 10ヶ月 在任期間
2年未満に2ヶ月

3代目
キャラウエー 陸軍中將

在任：自昭和35. 12. 至。39. 6. 3年7ヶ月 対日抗戦
頭蓋骨なし

GA-6

外務省

沖縄の本土復帰を促進する上に多大の貢献を行なつた。昭和四十六年十一月、米國上院の沖縄返還協定審議において同弁務官が沖縄の早期返還の必要性を強調した証言を行なつたことは記憶に新らしいところである。

二、長年にわたる沖縄百万県民の念願であつた国政参加を実現するためあらゆる努力を払い、また、米國の民政諸権限の日本國への移行を円滑ならしめるため、沖縄の本土復帰前に米国民政府の一定のものを逐次琉球政府に委任する道を拓いた。

三、沖縄はもとより、日本本土においても重大な歎心事であつた在沖縄毒ガス兵器については、沖縄住民の感情を十分考慮し、あらゆる機会を捉え撤去の必要性を米本国政府に訴えその実現に導くとともに、その撤去に際しては自から數度にわたり撤去作業にも立会い、移送の際の安全対策に万全を期した。

四、在沖縄米軍基地をめぐり、米軍関係者及び沖縄住民との間に

功績調書

アメリカ合衆國琉球諸島高等弁務官
陸軍中将ジェームズ・ベンジャミン・ランパート

右は一九六八年十一月二十日、アメリカ合衆國琉球諸島高等弁務官に任命され、一九六九年一月二十八日着任以来、今般沖縄の本土復帰によりその任務を全うし離任するに至るまで在任三年四ヶ月、この間沖縄住民の願望を十分理解し、沖縄の本土復帰をめぐる日米協力関係の増進および沖縄住民の福祉の向上ならびに沖縄の経済的、社会的、文化的発展に尽した功績は誠に顯著である。その主な業績をあげれば次のとおりである。

一、沖縄復帰準備委員会の積極的な活用等を通じ日本政府及び琉球政府との協力を留にし、沖縄の社会的、文化的、経済的発展に尽すとともに、常に沖縄住民の願望を遠切かつ卒直に米本国政府及び議会関係等に説いて沖縄に対する理解を深からしめ、

派生する諸問題については、常に沖縄住民の要望等を十分尊重し誠心誠意その解決につとめ、また、米軍基地に働く沖縄労務者の削減に對しては、努めて配員転換を図り削減を最小限度におさえるとともに離島者対策に最善をつくす等沖縄の民生安定に努力した。

五、沖縄に度々襲来する台風の被害に對しては、罹災地区住民に直ちに建築資材、医療品等の救援品を送り救済に努めたのみならず、時に応じては自ら現地に赴き直接救援作業の指揮に当り、また、沖縄の沿岸における漁船の遭難および離島における急患者の救出等に對しては熱帯米軍ヘリコプターを派遣する等積極的に対処する措置を講じた。

○

○

○

アメリカ合衆国陸軍中部ジエームス・ベンシャヤ
ミン・ランバート 路歷
U.S. General James E. Murphy, Jr.

一九一四年 四月十六日 ワシントンD.C.で出生

一九三六年 陸軍士官学校卒業

一九四〇年 陸軍中尉

一九四二年 陸軍少尉任官

一九四三年 陸軍中佐

一九四五一年七月 フィリピン群島ルソン島駐留

一九四五七年十二月 在日第一四軍團工兵隊長室勤務

一九四五年十二月 陸軍大佐

外 蘭 省

一九五八年一〇月	サイゴン、火薬庫援助顧問團兵站部次長
一九六〇年十二月	
一九六一年一月	陸軍省工兵監室軍事施設局長
一九六三年六月	ニュー・ヨーク州ウエスト・ポイント陸軍士官学校長
一九六六年一月	ワシントンD.C. 国防次官補代理 (兵員管理担当)
一九六六年一月	在琉球駐留米軍司令官兼高等弁務官(在琉、米陸軍及び第 九軍團司令官、米太平洋方面統合軍總司令部琉球代表兼務 に任命される)
一九六九年一月二八日	着任
一九七二年五月十五日	沖縄の日本本土復帰に伴い離任する

外 種 雜

一九四六年三月
一九四七年二月
一九四七年七月
一九四七年二月
一九四七年七月
一九四八年七月
一九四九年六月
一九五〇年七月
一九五二年九月
一九五二年九月
一九五七年七月
一九五八年八月
一九五八年七月

在日第九軍團工兵總長
ワシントンD・C・マンハッタン計画の行政担当將校
ワシントンD・C・米軍特殊兵器監計局人事行政部長
工兵學校上級講師、參謀統帥大佐、參謀大學平榮
ワシントンD・C・米軍特殊兵器監計局監計團團長
オクラホマ州タルサ所在工兵团アーガンダス・ホワイト。
レット・リバー流域計劃主任
ワシントンD・C・陸軍原子力委員会共同原子力發電計画
主任
サイゴン、米・軍事援助顧問團技術專門官

既に儀典課で用意した英文(下田書類官作成)を使うことに決定した。
尚、同英文は小物取扱官に手交する手合に付けてある。
(次回添付して儀典課より)
5月16日

5月15日
大日本外務省
儀典課長
大日本外務省
和、英文とも字幕通
送付乞う。儀典、下田

真1号乙5
アメリカ局長
参事官
北米ホーリー課長

ランパート中将に対する勲章
伝達について

(ランパート中将の誕生日(150~190))
(木北一)
(150)
復帰後、ランパート中将に対する勲章伝達を
行うこと、その際の御禮のいふつ(案)を
(予定)
起案下さいにて、御枚内願ひます。
(別添のヒツイ)

(12月、勲章の授与式は11月21日、11月
第一第200章と行なうとしてあり、10月
12月の15日(12月第200章と予定)
5月12日の商議で旭日一等叙勳に決定した。儀典、下田、記)

ジエームズ・ベンジャミン・ランパート中将へ
勲章伝達の際の佐藤總理大臣のあいさつ（案）
ランパート將軍

昭和四十七年 月 日

天皇陛下におかせられては、貴下がアメリカ合衆国琉球列島高等弁務官として在職されました間、沖縄の本土復帰実現という偉業の達成及び沖縄住民の民生福祉の向上、沖縄の経済的、社会的、文化的の発展、並びに日米協力関係の強化のため尽力され、それにより日本両国の親善関係増進に貢献された功績を嘉せられ、このたび勲一等旭日章を貴下に贈与されました。

本日、貴下に右叙勲の旨をお伝えし、勲章と勲記を伝達しますとともに、心からのお祝いを申し上げることは、私の最も欣快、かつ、光榮とするところであります。

(DRAFT)

General Lampart,

His Majesty the Emperor has conferred upon you the First Class of the Order of the Rising Sun, in recognition of your distinguished services in effectuation of Okinawa reversion, which is an event of historic significance, and also in recognition of your outstanding achievement in enhancing the welfare and well-being of the people of the Okinawa Prefecture, as well as ⁱⁿ the economic, social and cultural development of Okinawa during your tenure of office as the ~~last~~ High Commissioner of the Ryukyu Islands, thereby contributing greatly to the further promotion of the friendly relations between Japan and the United States.

It is indeed a great pleasure and privilege for me to hand over ^{to} you the Decoration and ^{the} Diploma and to extend to you my hearty congratulations.

Lieutenant General James B. Lampart took the office of High Commissioner of the Ryukyu Islands on January 28, 1969. His tenure of office, amounting to approximately 3 years and 4 months will be terminated upon reversion of Okinawa, i.e. on May 14, 1972.

In recognition of the outstanding services as stated in the following he rendered during his tenure of office, the Emperor has decided to confer upon General Lampart, the First Class of the Order of the Rising Sun.

1. Contribution through the forum of the Preparatory Commission in Okinawa toward the promotion of the cultural and economic development of Okinawa.
2. Contribution to help effect the Reversion of Okinawa to its home land.
3. Efforts toward realization of the Diet Participation.
4. Facilitation of the smooth "USCAR Phase-down", namely, the transfer of certain functions of USCAR to GRI.
5. Contribution to the complete removal from Okinawa of chemical munitions.

(Note: General Lampert was present on the highway side almost every day, in order to ensure in person the safety of the Red Hat Operation.)

6. Successful efforts toward ~~minimization~~ ^(minimizing) the impact of RIF upon military employees in Okinawa.
7. Active rescue and relief operations as in the case of typhoons, including the provision of necessity of life, medical supplies, etc.

大政事外儀官		注 意
務務 典房		1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
次次		2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。
臣官宣審長長 儀總人電厚計 書文会當給		
電信写		
総番号(TA) R3791		
72年05月12日23時58分 沖縄省		
72年05月13日05時31分 本省		
調査長	参企析調	主 管
領移長	参領旅查移	発 着
外務大臣 殿	玄蕃(大使)	臨時代理大使 総領事 代理
ランペート高等弁務官に対するじょくん		
第302号 平至急 (ゆう先処理)		
ア 参地中東 長 東西 米 参北北保	共同通信によれば、12日の閣議でランペート高等弁務官に対し、きよく一をおくることが決められた趣のところ、右に相違なきやおり返し回電願いたい。	
中 参一二 南審 欧 参西東洋 長 西東	(了)	
近ア 参書近ア 長 経 次總經国资 一源 長 経 協參貿統國 長 経 協參政技一理 国企二 長 国 參條協規 長 働 參政經科 長 働 參道内外 文長 参一二		

外務省電信案 (分類)					
機密表示(極秘・秘の朱印)		符号表示 暗略	平	※ 総第 0513 139-00号	
平文		※ 第 156 号	※ 昭和年月日時 分発 47.5.13 18.18	(※印欄内は電信課記入)	
		大至急・至急	普通・LTF	発電係	
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長		主管	主管局部課(室)名 米北 起案 昭和47年5月13日 起案者 IR中 2465 電話番号		
協議先					
R儀典官					
在冲縄 高級(大使) 総領事					
臨時代理大使 代理					
在 電報 大臣 殺					
件名 ランパート中将に対する叙勲等 (R21往電米北1944年5月13日)					
貴毛才 302号に附し。					
1. 12日の閣議において、ランパート中将に対する 熟1年加日大綬章を叙勲することを決定 した。在支熟章伝達式は向中将満章中 行なう予定。					
170 GB-1					

米北

2

2. 往観才 144号の2. の表故訪問次のみ。

(在日国会等のため裏更されることがある)

うるのび度のため。)

~~16日~~ 10:00 総理大臣

17日 09:30 ~~本~~ 大臣

14:00 船田謙院議長

15:00 総理大臣(重辛候)

(山本大臣と同席の予定)

~~18:30 フリカ大臣~~

18日 15:00~16:30 防衛庁長官の

他 総幕元老及陸幕長

3. 19日 15:30 中将夫妻は両陛下の謁見

を賜ふ予定

(3)

儀典長

儀典官

大昌陸トヨリ 大寧

ラシバート中将に付する

天皇陛下よりお言葉ぶり 実業(西原)

南北

一、沖縄における米國の最高施政官としての大
臣を重んじ、かつ、沖縄の外が國への復帰実現
に尽力せられた貴下にお会いする、と心から
喜ばしく因ります。

一、このたび、沖縄復帰の積年の宿願であり
わが国民

外務省

まことに祖国への復帰実現といふ歴史的

偉業が達成された。これはひとえにニケン

大統領はじめ貴国国民の力が功に付す
る深い理解と友情の賜物であると考
えます。

貴下にかけは、

琉球諸島

高等弁政官として直接現地にて沖縄

外務省

2

2

○ ○

○ ○

○ ○

○ ○

○ ○

官内省式部職へ写 / 部送付済 (47年5月10日)

3.

国民の願望を十分理解し国民の精神の
 向上に努力されるとともに、詳細のわが國への速
 い実現に多大の貢献を行なわれました。
 かな復帰(促進)の本旨、終始、積極的
 努力されることは御承知のことであると
 二機会に蒙下候る
 申すが如き功績に深く敬意を表します。
 一これまでの上記の年月にわたるご苦労に
 比へ、ご滞在中のいか園でのご滞在は

4

余りにも短かく、ご多忙なご日程とのゆで
 すが、貴下ご夫妻が心ゆくまでご休
 養をおつき下さいよう今へいます。
 費下ご夫妻が長くご健康を維持
 され、今後とも一層日米両国の親善、友
 好關係の増進に尽力下さいよう
 然つてやみせん。

儀典長

儀典官

(15)

2022

喜峰 参予

(英語と日本語)

ランパート 将軍

天皇陛下には、貴將軍がアメリカ合衆国琉球諸島高等弁務官として在任三年四ヶ月、この間、沖縄の本土復帰および沖縄住民の福祉向上のため寄与された功績を嘉せられ、五月十二日付ももつて貴將軍に勲一等旭日大綬章を贈与される旨仰せ出さねました。

わたくしは、この叙勲の旨を貴將軍にお伝えするとともに、勳章、勲記を伝達することを欣快に存じます。

外務省

General Lampert,

His Majesty the Emperor, in recognition of the meritorious contributions you have made to the reversion of Okinawa to Japan proper and the enhancement of the welfare of the people of Okinawa during your three years and four months' tenure of office as United States High Commissioner for the Ryukyu Islands, has been pleased to confer on you the First Class Order of the Rising Sun under date of

May 12, 1972.

It is now my honor and pleasure to deliver to you the decoration and diploma.

Congratulations.

字1却
小形紙書入
並付す

ランパート中将に対する勲章伝達式
出席者

47. 5. 17
北半才一譯

米側：

Gen. Lampert, James B.

Mrs. Lampert

Mr. Schneider, Richard L.

Mr. Schmitz, Charles A.

Gen. Lee, Richard M.

(在日米軍參謀長)

Mr. Clark, William (前USCAR副司令)

Col. Meads, John A. (高等弁務官補付)

Mrs. Meads

Mr. Sankey, George K (通訳)

Capt. Harris, P. R. (副官)
(Maj.)

GA 6

外務省

2

日本側：竹内義典長

眞崎大使

米局次官及米局參事官

北半才一譯
安全保障課長

GA 6

外務省

五二八一中將熟章佐達式
出席者 (5/17 終次GP)

米SKY;
Gen. Lampert, James. B.
Mrs. Lampert

Mr. Schneider, Richard L.
Mr. Schmidt, Charles A.

Gen. Lee, Richard M.
(5月半軍事謀光)
Mr. Clark, William (USCAR 海外研)
Col. Meads, John A. (音響研究部)
Mrs. Meads

Mr. Sankey, George K. (五二八一中將)
Capt. Harris, P. R. (副官)
日文例:
1 嘉山壽七郎
2 幸石義之助半蔵
3 土半一郎
4 宮本保障源次